

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 3年 7月10日
(98号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 学塾・中之島事務局

人間学講座
第105講

「感謝と希望は、困難に勝る」

大島修治先生



■劣等感を課題とする

二五年前、会社に押し入った暴漢に襲われ、ガソリンをかけられ丸焼けにされる事件に遭遇しました。今も私は毎朝洗顔のときに、劣等感と罪悪感を感じるのです。罪悪感とは親からもらった体をこんなにもぼろぼろにしてしまったこと。しかし罪悪感の先には、生かされて有難いなあという気持ちがあります。

劣等感というのは、火傷のために不自由なことがいろいろあるから。指が溶けて無い、思うように歩けない等々、かつて不自由は不満でしたが、学び始めることで、不満は感謝に変わりました。腕が残ってくれている、指もまだ三本ある、動いてくれている、みんな感謝です。初めのうちは当然字も書けない、しかし練習するとやがて書けるようになる。できるようになることにも感謝です。今まであったものが無くなったという悔しさよりも、あらためて手に入ったときの喜びは最高です。不自由でも人の助けがある、不自由を自分の課題とすれば解決できってくる。劣等感とは否定的感情だと思っていました。劣等感を支えてくれたのはほかでもない劣等感です。劣等感を課題とし取り組めば克服されていく。それは私を成長させてくれるエネルギーです。神さまが与えてくれたプレゼントだと思っています。

行動の原点は意識です。気づいたことを無意識にできるようにしたら習慣になる。意識が変われば考え方が変わり、考え方が変われば行動の習慣が変わる。習慣が変われば体質が変わり、体質

が変われば運命が変わる。運命が変われば人生が変わるのです。たった一つのルーティンを変えることで人生が変わってゆくのです。成長とは新しい良い習慣を続けてゆくことだと思います。

■絶望が希望に変わった

森 信三先生は「出会うべき人には必ず会える」と言われておられますが、これは人だけではなく、出来事もそうなのでしょう。事件当初は、一体自分がどんなことをしたというのだ、と神様さえ恨む状況でした。しかし、その後この森先生の言葉にも出会い、起こったことみな意味のあることなんだ、出来事はその人の性格に相応しいことを引き寄せるに違いないと思えました。おそらく私も知らず知らず敵を作るような人生を歩んでいたから大火傷を負う出来事と出合ったのではないかと。当時は四八歳、年商百億で三億の豪邸に住み外車もたくさん所有していました。今から思えばお金を追いかける生き方をしていたのでしょうか。

事件のあと、医師からとても助からないと思われていました。三倍に腫れた皮膚に巻かれた包帯を替えるときの耐えられない激痛。絶叫で意識を失うほどです。ああ今日も一日生き延びたのか、と毎日思いました。もう死にたい、と思ってもそれすらできない不自由な体です。そんな絶望しかない私に生きてみようと思う出来事がありました。それは面会謝絶の私に会いに来てくれた両親の言葉でした。当時七四歳の母は「どんな体になっても生きてね。母ちゃんはこの歳でもう一人新しい子ども産んだと思ってどんなお世話でもするから」。それを聞いたとき、父ちゃん母ちゃんより長生きしよう！がんばってみよう、と目が覚め、それ以後は自殺など思わなくなりました。それからもう一人、福岡再生病院の名誉院長が私の身体を診ては「いいね！いいね！」ばかり言うので「こんなにひどい状態で何がいいんです」

と聞くと「肉が盛り上がってきているよ、いいね！」。この「いいね」は絶望を希望に変えた言葉でした。思い返せば、自分自身、家族や社員にも責めることはあっても「いいね」とは言っていなかった。事件の犯人は、こんなことにも気づかせてくれたのですから「ありがとう」しかありません。お蔭で生き方が変わった。

■本気のものさし

人間には意欲という欲があります。これがなかったら、ただ生き長らえるだけになる。本気で生きる意欲、その人間の本気度については「ものさし」があります。いかに本気かということがまるで磁石のように人の心を惹きつけます。その「本気のものさし」とは次の四つと考えます。

- ① 自分の意志で決める。
 - ② 続けてやる。
 - ③ 楽しくやる。
 - ④ 援助者が現れる。
- 今選んでいること、決断していることが未来になります。

私には夢があります。大火傷を負った心身は温泉に癒されていったという体験から、温泉を作りたいのです。温泉に入りたくても、私のような火傷とか手術の痕のある人、車椅子の人はなかなか利用しにくかったりします。そんな方々も楽しめるバリアフリー温泉「やまびこ温泉」を阿蘇に作りたい。

楽しい人生を送るには、・志・ビジョンを明確にすること。私も夢と仕事と社会貢献のバランスをとりながら、夢実現と恩返し活動をしたいと思っています。

(抄録 中川千都子)

《わたしの感動語録(抄録)》

K・T

・病氣とけがは、病気の赤信号

・お元氣様です!! から始めるコミュニケーション

T・I

・「意識が変われば行動が変わる」「行動が変われば習慣が変わる」先生の体験から多くのことを学びました。

Y・A

・「いいね」がすべてでした。

K・S

・母の言葉「どのような身体になっても必ず生きてね」「新しい子どもを産んだと思ってどんなお世話もするから」

・何のために「ゴール」「志」「自分のなりたい姿」

が、大切、そしてコツコツ・・・

T・I

・不自由なことが感謝に変わった。

・劣等感が成長させてくれるエネルギー

・握手は最幸の込みにケーション

・今は、「円」ではなく「縁」を追いかけている。

T・N

・「ありがとう」と「希望」「本氣の行動」

・意識を変える ↓ 人生が変わる

H・F

・出来なくなったことへの不満より、新たに出来るようになったことへの感謝

・人と自分合わせて十だとすれば、五×五が最大

・何を見るのか「GOAL」「敵(相手)」なのか。

E・S

・「怨讐の彼方に」にある世界、それは意識と実践の

積み重ねで大きく変わることを学びました。
また、「怨讐の彼方」にある石を闇ではなく、光に変えていただきました

S・F

・決断 ↓ 今選んでいることが、未来をつくる。

・終活は社会貢献

S・M

・自分で決断して継続する。

・リーダーの行動が社風を変える。

S・N

・不自由が感謝へ

・劣等感が自分を成長させてくれた。

・リーダーとして一番大切なことは「場づくり」

・能力差より努力の差、努力の差より継続の差

M・H

・決してあきらめなければ夢は叶う。

T・M

・目的を持って実践していくプロセス

自分の意志で決める↓続けてやる↓楽しんでやる↓

援助者が現れる

K・Y

・無意識の意識化 行動の原点は気づくこと

・リーダーの大切な仕事は、「場作り」良い場さえあれば人は自ら成長エネルギーを出す。

・決断Ⅱ覚悟↓一つ決めたら一つ断つ

(決断はまだ迷っている状態)

H・I

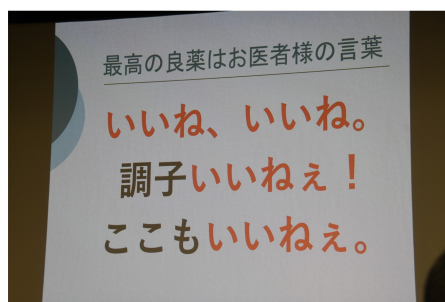
・命と健康を大事にする

・ありがとうの気持ち沸いて来る8項目

↓変わらない自分

・何のためにをもう一度明確にする

そして、コツコツコツコツコツ・・・



《アーカイブ》 師に導かれて



寺田一清先生

■西晋一郎先生のご功績

けさ倫理法人会の西区のモーニングセミナーに招かれて、七〇分お話をさせていただきました。お話の内容は、倫理研究所を創設せられた丸山敏雄先生と、「実践人の家」の開設者の森信三先生の共通の師であられた西晋一郎先生の人と思想と功績についてでした。当時の日本の哲学界の双璧は、東に西田幾多郎あり、西に西晋一郎ありと言われました。その西・西田の両先生に学ばれたのが、森信三先生でした。そのあぐくの果て、わが生涯の師とすべきは、西晋一郎先生であると、一心決定されたのです。京都大学哲学科に入学、大学院まで進み、学ばれた結果であります。

西晋一郎先生のご功績の第一は、忠孝の哲理につき、終始一貫お説き下されたこと、その第二は、日本の生んだ先哲につき、これを深く広く顕彰せられたことです。まず

第一、中江藤樹先生（一六〇八～一六四八）

第二、石田梅岩先生（一六八五～一七四四）

第三、二宮尊徳先生（一七八七～一八五六）であります。

日本の哲学は、この三大先哲の道統を継ぐものでなければならぬとの信念に基づいております。もとより森信三先生もその道統を継ぐもので、日本はこの三大先哲により、再起するほかないとせられました。

■先師森信三先生について

わたくしの先師森信三先生について、いつも申し上げておりますが、
①国民教育者の師であり父であるということは、すでに、日本教育史上すでに歴史的評価は定着しております。

第二に②日本の哲学（これを全一学と称された）の復興を目指されました。

つぎに③「人生二度なし教」ともいわれ、「生き方宗」の教祖、宗祖といわれるべきお方ではなかるうかと思われまふ。わたくしはその師に三八歳の時小学校の恩師に紹介されて以来、今日にいたるまで師恩の深重なるを痛感しております。もとより愚鈍の身です。お恥づかしい次第ですが、わたくしの人生の至福は良き師とのめぐりあいの一事に尽きます。

■師を持つありがたさ

きわめて凡愚の身ですから、三度ばかり訣縁状をつきつけられたことがあります。ただの一度も師の膝元を離れようと思ったことはありませんでした。師を持つありがたさは、何かと言えば、①人生の「第一義」についての伝授です。宇治万福寺の山門の額を仰ぎ見てくださいと仰言られました。その額面には「第一義」の三文字が刻まれておりました。②生き方の基本原理についていろいろ細やかに教えられた。つぎに③実践の具体的方法論についてきわめて親切に教えられた。書物から得られる真理は平面的ですが、師から得られる真理は、きわめて立体的です。では顧みて先師から何を教わったかと言えば、数限りがないものがありますが、その内から二、三を述べるならば、その第一は、身心相即の理としての「立腰」を教わったことです。

わたくしは、当年満八十歳ですが、今こうしてわたくしなりの仕事をさせていただけるのは、三十八歳の時、立腰のたねまきをしていただけのお陰であります。第二には、「生き方」の基本の基本である「しつけの三ヶ条」を教わったことです。①朝のあいさつ人より先に ②ハイの返事の明るい即時対応 ③はきものを揃え 椅子を机の下に入れる この三つの平凡行です。基本的礼儀作法の大切さです。座布団の上に立つて話をしたり、椅子を片手で処理することは、日本人

の礼儀作法に反することです。車内で足を組む若い女性が増えております。女性と男性の椅子の座り方の違いを教えねばなりません。道と名のつくことは、すべて、「カタチ」「カタ」の習得から入り、これを究めるのです。

次に教えられたことは、自己成長の原理であり、職場再建の原理である①時を守り

②場を清（浄）め ③礼を正すの三大原理です。時を守るは、ただ単に期限や時間を守るにとどまらずすべての「きまり」を守ることの重大さです。いかにきまりを守らな

い人の多きことよ。信号さえ守らず赤信号すらあえてわたる人が増えていきます。

つぎに教えられたことは、「逆境に処する態度」です。「逆境は神の恩寵的試練なり」の一語です。わたくしも昨年はかえりみてたいへんな一年でした。必然的事情に迫り、すべての蔵書を手放し、出版業をやめました。これで立ち上がり再起することができました。

■卒塾記念の皿の「而（に）今（こん）ニコニコ」
去る一月三〇日、島根県益田市の県立養護学校にてお皿一〇五枚の書毫を終えて参りました。「而今ニコニコ」です。而（に）今（こん）とは、「いま ここで」ということです。而今とは、道元禪師の一語です。即今着手、即時処理に通じるコトバです。

いま教育再生が叫ばれていますが、家庭の回復が何より重大です。それは家庭における笑顔の回復、そして明るいあいさつです。こうした凡事の徹底から始めるほありません。

今日の最大の朗報は、山形から旧友の大内勇さんが聴講にかけつけてくださったことです。ありがとうございます。ご縁のありがたさを痛感するばかりです。

《人間学塾・中之島》

令和3年8月カリキュラム

*日時 8月14日(第2土曜)

午後1時〜3時

*場所 大阪市中央公会堂(大会議室)

大阪市北区中之島5-3-51

▼第一部

午後1時〜午後3時

*講師 執行草舟先生

※5月コロナ禍で、緊急事態宣言発出された為休塾致しましたので、ビデオ放映にて中之島塾の為の撮影ビデオを放映致します。

1950年 東京生まれ。立教大学法学部卒。実業家、著述家、歌人。生命の燃焼を軸とした生き方を実践・提唱している生命論研究者。著書に『人生論』『生くる』(講談社刊)人間の老いについて語った共著『耆に学ぶ』(エイチエス刊)(寺田一清名誉顧問他共著)横田南嶺老師と禅と武士道の真髓を語った対談本『風の彼方へ』―禅と武士道の生き方―『現代の考察』(PHP研究所刊)『現代の考察 ただ独りで生きる』(PHP研究所刊)『生くる』(講談社)『脱人間論』(講談社)その他著書多数。

▼第二部

第八〜九期卒業式

午後3時15分〜午後4時

卒業式タイムスケジュールに準じ開催いたします。

第十期に向けて

新旧世話人代表挨拶

《芳信抄》

東京都 鍵山秀三郎先生

5月22日体調が急変し、疼痛・痺れ・硬直の症状が全て悪化しました。ハガキ一枚書くのも大変な状態になってしまいました。従いましてこれから以降のご返信ご容赦いただきたく存じます。ご理解をいただきたく存じます。

埼玉県 山下武彦様

第十期の講師紹介は大変魅力的でお近くであつたら是非聴講したく思いました。横田南嶺管長の「立腰」と「ハイありがとうございます」は寺田先生のすばらしさを全て言い得ておられるようでありがたく拝読させて頂きました。

宮城県 加藤秀夫様

堀内明日香様の、宝塚の組織理念と行動原理の基本を学ばせて頂きました。横田南嶺管長の管長侍者日記は、ご講話を拝聴する如き、森信三先生・寺田一清先生の教えに万感の喜びをいただきました。

埼玉県 大出雅一様

堀内先生のお話から宝塚歌劇団の内容が初めてわかりました。表面的にはミュージカルを女性が男役になって演じているぐらいしか分かりませんでした。人間の本質を学ぶのに必要な理念を体感するところであることを知り劇団が百年以上の歴史を持つのがわかりました。横田南嶺管長の寺田一清先生に寄せる深い思いに心動かされました。

愛媛県 桂 誠司様

堀内明日香様の人材育成のキーワード、一、ゴールが明確 二、身体で覚える 三、在り方で示す 人生を輝かせるために、人間学の大切さが分かりました。

愛知県 塚本恵昭様

横田南嶺管長の「管長侍者日記」の筆録もさすがで

す！ 管長よく活かしてくださいました。

愛知県 坂部智一様

宝塚歌劇団に愛知県から観にいったことがあります。堀内先生のお話の中で、歌劇団の一体感を大切にされていることを知りました。劇場のお客さまは、それはそれは笑顔と幸せ感のオーラが出ていて興奮状態でした。技術と理念と方向性が感動を与え続けると分かりました。

奈良県 角高憲治様

横田南嶺管長の「管長侍者日記」をはいどくし、寺田一清先生にお目にかかるのが楽しみと感じ入りました。九期も後一講座を残すのみとなりましたね。第十期の案内もお送りいただきました。入塾申込みいたしますので引き続き宜しくお願い申し上げます。

大阪府 山田 司様

大阪城オールでの大島先生のお話は、インパクトが十分あり、著書を二冊購入、一冊を上司にプレゼントしました。

鎌倉円覚寺にて、

読書会

